

(様式1)

教育研究業績書

2022年5月1日

氏名 関根 みぎわ

研究分野		学位	
臨床看護学 (周手術期看護学、がん看護学)		修士 (看護学)	
研究内容のキーワード			
急性期看護、周手術期看護、がん看護、家族看護			
教育上の能力に関する事項			
事項	年月日	概要	
1. 教育方法の実践 1) オンラインでの遠隔実習における学習を促進する取り組み	2020年6月～7月	慢性の健康障害をもつ対象(終末期を含む)が健康やQOLを維持・向上できるような看護実践をするために、対象を全人的にとらえ、対象とパートナーシップを築きながらセルフマネジメントを支援する方法と、そのための基礎的能力を修得できるよう紙上事例を用いて遠隔にて実習指導を行った。	
2. 作成した教科書、教材			
3. 教育上の能力に関する大学等の評価			
4. 実務の経験を有する者についての特記事項			
5. その他			
職務上の実績に関する事項			
事項	年月日	概要	
1. 資格、免許等 看護師免許証口	2006年4月4日	看護師免許 (第1342350号)	
2. 所属学会 日本看護科学学会 日本がん看護学会 聖路加看護学会	2020年4月 2020年4月 2021年4月		
3. 実務の経験を有する者についての特記事項			
4. その他			

(様式2)

研究業績等に関する事項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
喉頭全摘出後の夫と共に暮らす妻の術前における構え preparedness (修士論文)	共著	2020年3月		喉頭全摘出術により失声する夫を見守る妻の術前における構えpreparednessを記述することを目的とし、質的記述的方法を用いて分析した。その結果、構えとして9カテゴリー、65サブカテゴリーが抽出された。妻は〈命が最優先〉という価値に支えられながら、手術までの間〈夫婦のありようを振り返り〉、〈準備を万全に整え最善を尽くす〉とともに、〈日常が変わることなく過ごす〉ことを努力していた。そして〈現実 は現実として受け止める〉一方で、〈悲嘆に暮れ〉〈これから先の見通し〉を立て〈自分の在り方〉を再認識した。これらを支えたものは〈人生経験に基づく覚悟〉であった。夫婦のありようを振り返ることやこれから先を見据えることが、妻の術前における構えに大きくかかわっていることが明らかとなった。 共著者：関根みぎわ、栗生田友子
(学会発表、講演など) 喉頭全摘出後の夫と共に暮らす妻の術前における構え preparedness	共著	2020年12月	第40回日本看護科学学会学術集会 抄録	上記論文の一部分について口演発表を行った
(その他)				